

Asia Week 2025 Report

企画名 Title	人社系協働研究・教育コモンズ 第35弾企画シンポジウム 「学問の種を保存する—知的インフラとしての大学図書館」
開催日時 Date & Time	2025年11月7日（金） 13:00～16:00
参加人数 Number of Participants	現地/In-person：45名 オンライン/online：76名 アーカイブ視聴：84回
開催概要	
主な概要 Outline	<p>2025年度、九州大学図書館所蔵『金光明最勝王経』（奈良時代写、平安中後期点）が、国の重要文化財に指定されました。それを記念し、人社系協働研究・教育コモンズでは、「学問の種を保存する—知的インフラとしての大学図書館」を開催いたしました。</p> <p>大学図書館には、専門的な研究書や一次資料など、学術的に価値ある資料が多数収蔵されています。そうした資料の中には、文化財としての意義を持つものも少なくありません。たとえば、九州大学に所蔵されている平安時代の訓点資料『金光明最勝王経』には、奈良写経という歴史的・文化的価値、仏典としての宗教的価値に加え、当時の日本語の読解法や言語使用を知る手がかりとなる、国語学的な価値も備わっています。このように、大学図書館が保有する資料は、文化財としても、文献資料としても、そして研究資源としても重要であるという、多面的な価値を持つものです。</p> <p>こうした多様な価値を正しく理解し、適切に保存・管理・活用できるのは、専門的知識と体制を備えた大学図書館ならではといえるでしょう。それらの資料の価値は「今」だけで計れるものではありません。学術研究は常に進化しており、今は注目されていない資料が、将来の研究の鍵を握ることもあります。資料の保存は、過去から未来へと学術知の連続性を保つための基盤であり、大学図書館はその持続性を支えるインフラとして大きな役割を果たしています。</p> <p>本企画では、大学図書館が担う「保存」と「研究支援」に注目し、学術的・社会的に果たすべき役割について改めて考えました。大学における資料保存の方針や、文化財的価値のある資料の継承、そして潜在的利用者に向けたアーカイブ戦略の重要性についても議論を深めました。本企画を通じて、大学図書館の多面的な意義と将来にわたる可能性を広く共有する機会となりました。</p>

<p>登壇者 Speakers</p>	<p>氏名（所属、身分）Name(Affiliation, Title) <話題提供> 田村隆 （東京大学大学院総合文化研究科准教授） 「国文/17F」 山根泰志 （九州大学附属図書館） 「文庫たちの過去と未来」</p> <p><ディスカッサント> 伊東達也（山口大学人文学部准教授） 菅史彦（九州大学経済学研究院准教授）</p> <p><司会・企画> 蛭沼芽衣（九州大学人文科学研究院助教）</p>
<p>写真 Pictures</p>	 <p>The photographs show the event from multiple perspectives. The top-left photo shows a panel discussion with five participants seated at a long table, with a presentation screen behind them displaying text in Japanese. The top-right photo shows a wide view of the lecture hall with an audience seated at desks, facing the front. The bottom-left photo is a closer view of the panel discussion. The bottom-right photo shows another wide view of the lecture hall from a different angle.</p>